清所奉ヲ東日記

六

D
1013
6

逍遙文庫
文庫6
982
6

[illegible]
[illegible]
十一

東日記拾壹編

上

文庫6
982
6

飯島所藏

重寶記

冬暑往時分

道中ハ髪ヲ艾茂脇の

中へ入ル真上茂

下帯ヲメ法ヲ

歩行バ第一霍乱茂

腹痛の

麦ふく麦丹ある

御所奉公東日記拾壹編亭

夫朝比奈義秀ハ和田合戦の時怪力ヲ以て御所の門茂押破り後殿しく鎌倉を立退安房ヲ渡り夫より又越前の國若林ゟ引籠其後又朝鮮国ヲ入る支の物語ハ童の耳ふれ聞ふれ亦泉小次郎親平の行衛知ぬる木曾ゟ三浦太夫ゲ名茂假初ヲ昔語を引るゞして誓れ書ヲ以て新年の新版とはあらぬものの也

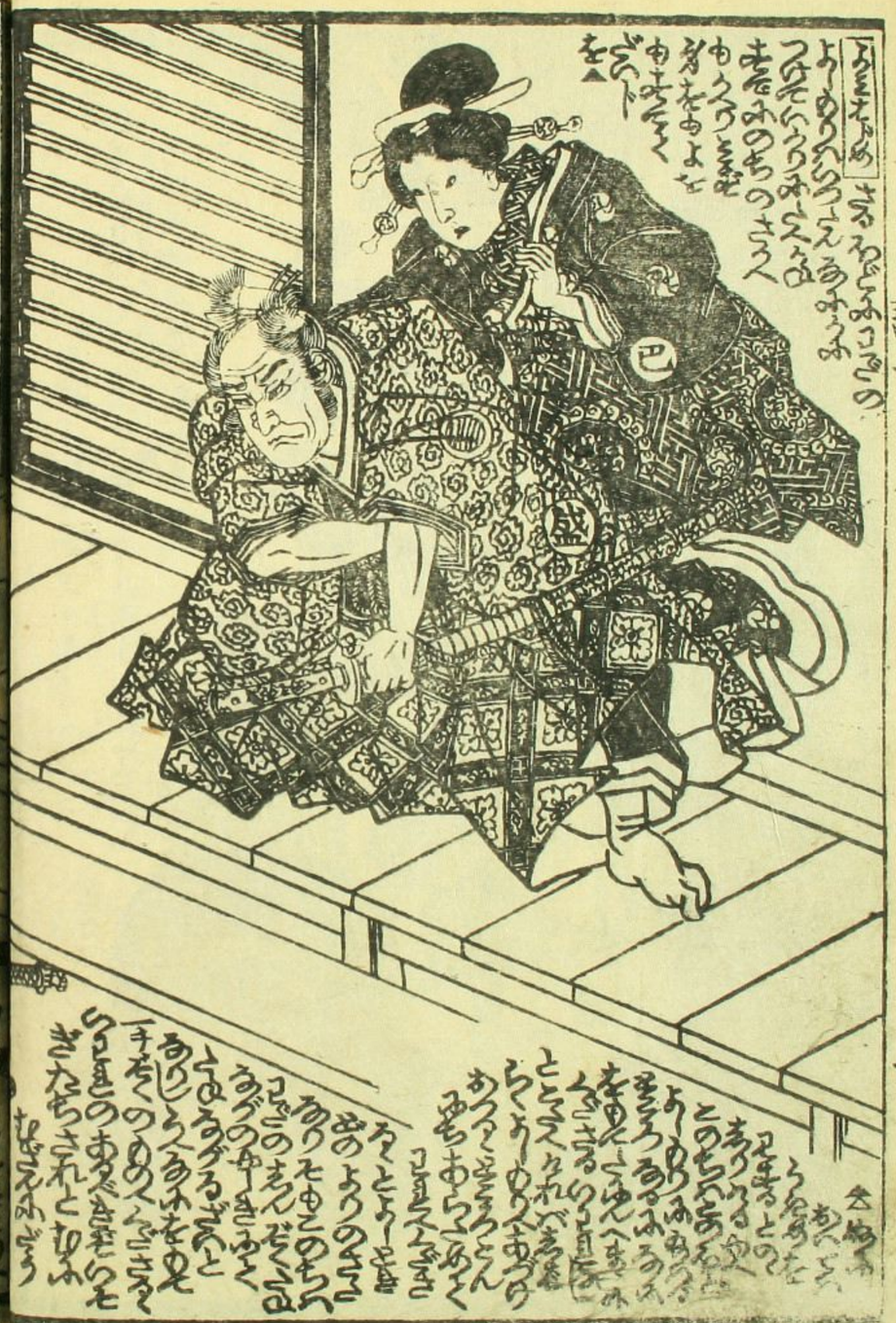
萬延二酉歳早春發市　万亭應賀誌

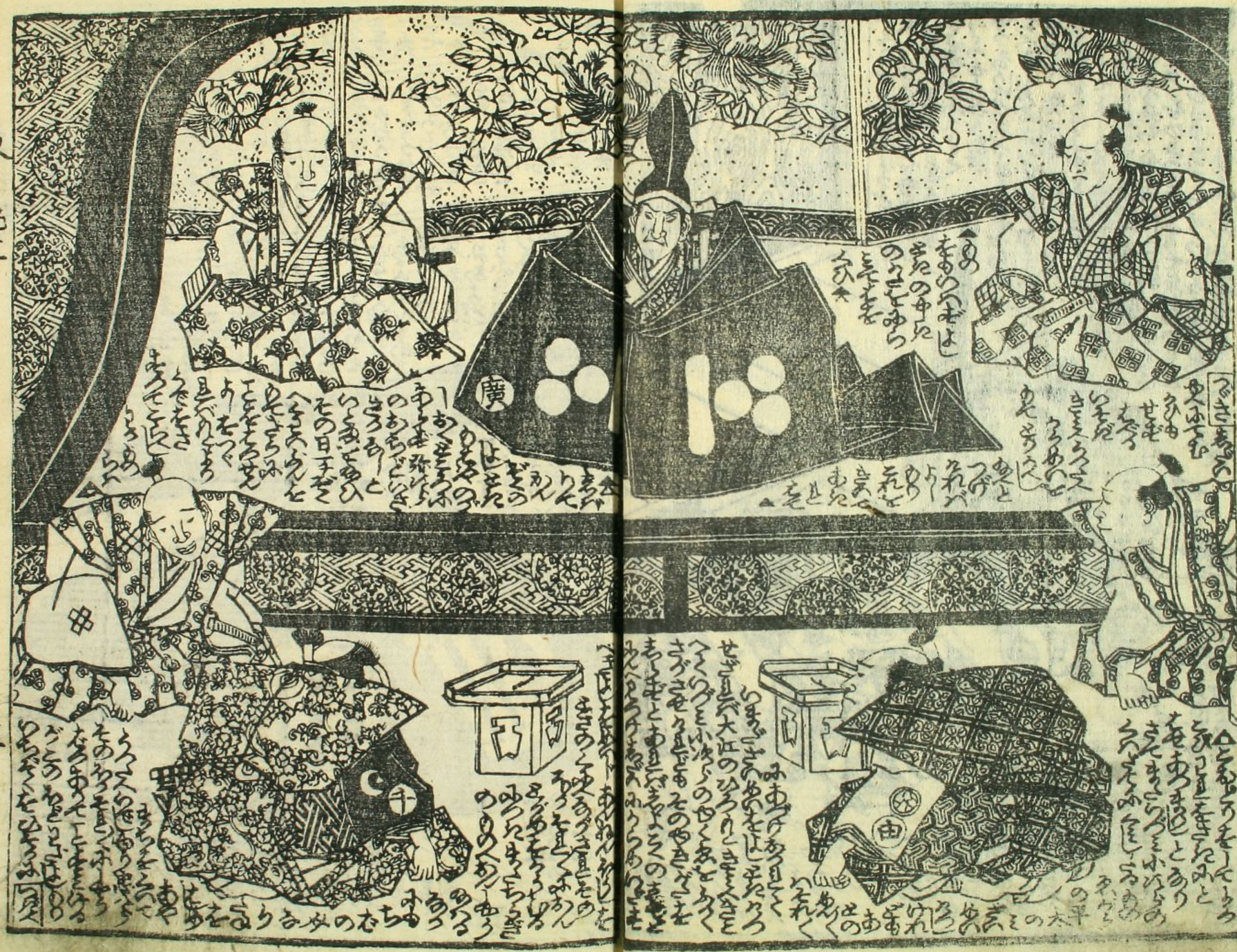
和田義盛の二男
新兵衛尉
朝盛忠孝両全を慮り入道し鎌倉を立退く
和田義盛の四男
四郎左衛門尉義直
父の命により朝盛入道を追ひ駿河国手越の駅より連帰る
平の経兼の子孫武蔵国の士
横山右馬允時兼
横山太夫
在人推守
時廣の嫡男
弓馬の達者
盛一味に加入是に依て一族鎌倉
義直
死
戦

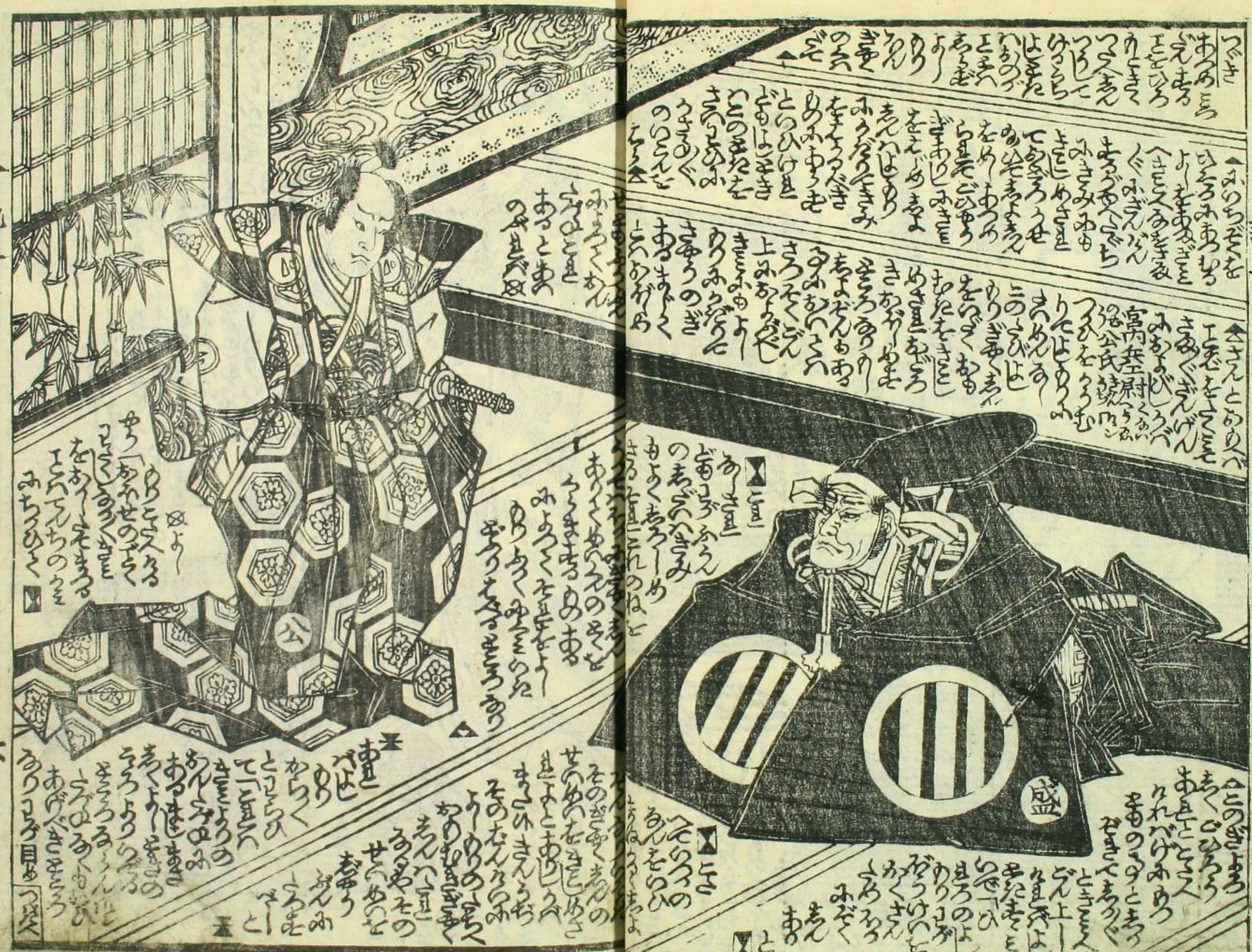
三浦太夫峯高

木曽瀧越村の住人にて
英名世に隱る和田合戰の
時義盛に加勢して
鎌倉前濱に
あらて自殺せ

三浦太夫峯高の娘鶴女鎌倉御所に勤めて頻死せ
し軀に松島の局の心入て長谷寺に再生し和田合戰
の時古郷に退て義秀に







直
朝

巴
朝

朝
兼

應賀作芳虎画

口中御藥 固齦散 大包代百銅 小包代三十二銅

功能 一ぬかみを 一うきを 一うみを 一血をとめる 一たべすぎを

○男ひやうのう ちよくしゃ

寢小便大奇藥 一包代三百銅

粉ハ口ニ入ルベシ 方ハ水ニ入ルベシ 中ハ痰ニ入ルベシ

清淨精製 白妙 一包代壱銅

白くあらうゆのごとし

無病長壽 養生手引草 全二冊 京山翁著 廣重画

美玉百人一首 中本形 全一冊

紅梅百人一首 半紙本 全一冊

雛鶴笹湯壽 紅摺大本

女中用文玉手箱 中本形 京山翁著

敵討白石噺 全二冊

伊賀越敵討物語 全二冊 芳虎画録

賴三升豊義神垣 三編 種清綴 讀切國貞画

新板端唄大津繪節 川柳点地口画 手本類數冊

万亭應賀作
一猛齋芳虎画
下

重寶記

鶴の着物あぶらあるまい早稲の
藁の一番汁あつ
濯ぐべしよく
ものこと妙あり

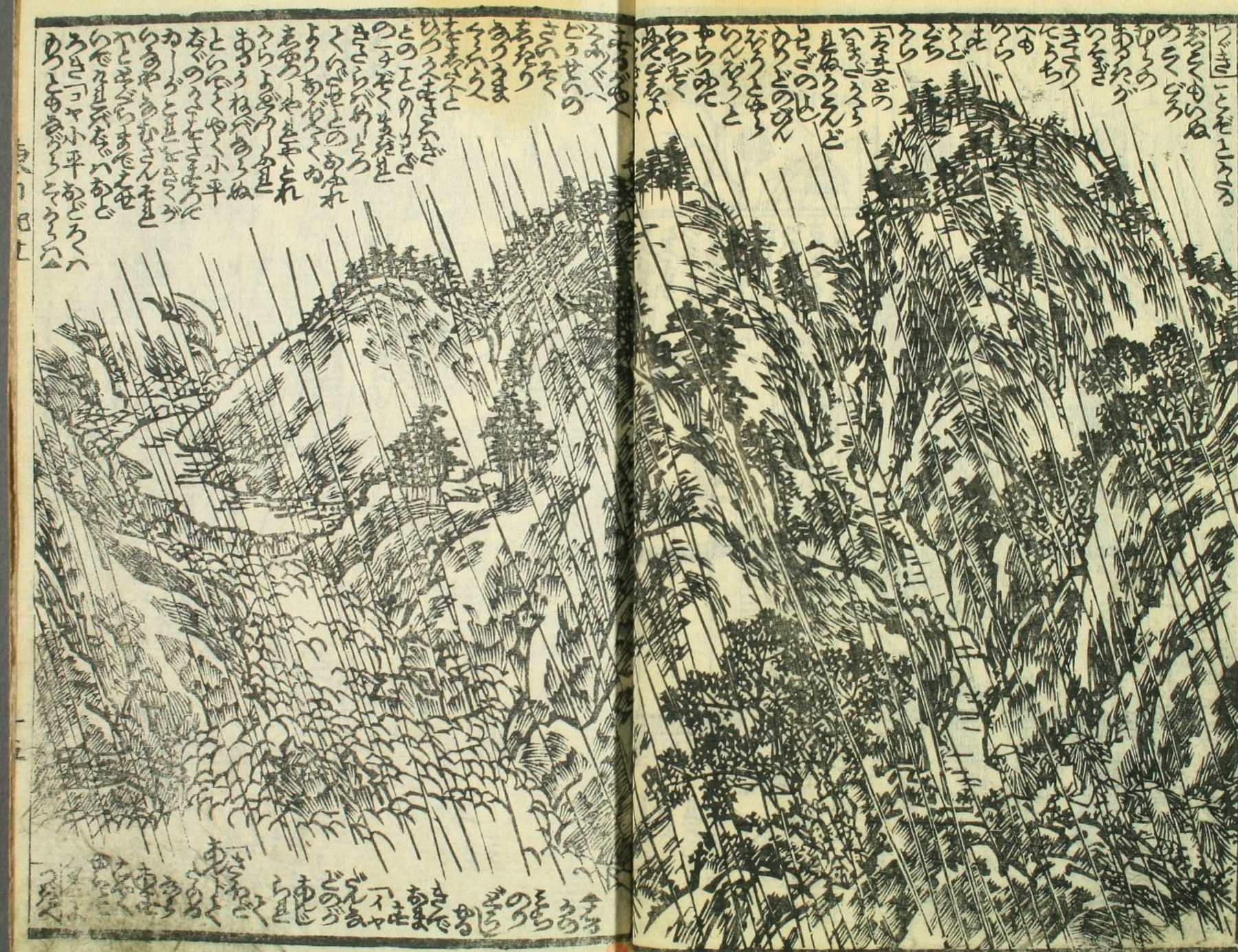
錦橋堂
壽鶴

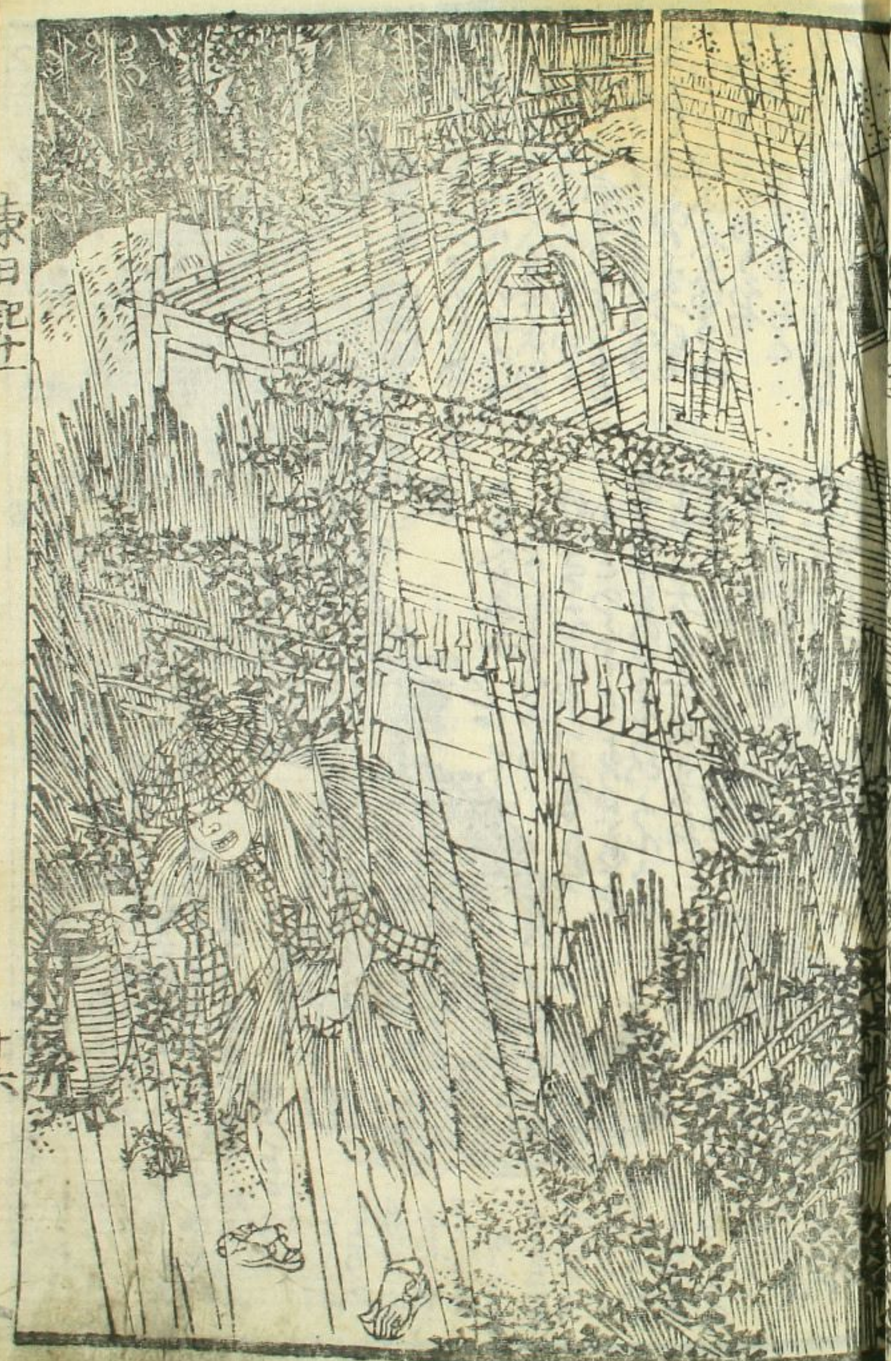
上の巻より

義
尼
廣

つぎを文どのもつて見るものあるべし

東日記上
小
老





つぎは

萬延二辛酉春開板目録

御所櫻梅松録　初編ヨリ五編迄出板　鶴亭秀賀作　歌川國貞画

初編　二編　三編　八菅原家の御殿場是善卿の御臺所松の前と御妾吳竹と時の懷胎より御世継を産んとの角附合ゐ始り四編より至りて道真公御降誕種々の奇瑞あり五編　六編　道真公の生立発力の工夫赤御継母の為め甚く憂苦を做し遂に長き物語りあり大團圓ゐ至て迄高賀あらんことを願ふ

御所奉公　七編　万亭應賀作　十二編　十三編　猛齋芳虎画

教草女房形氣　廿一編　鶴亭秀賀作　廿二編　梅蝶樓國貞画

足利絹手染紫　二十編金水作　廿一編國貞画

源家武勇鑑　一名猛圖會　一編秀賀校合　二編芳虎画録

座　地本問屋　錦橋堂　南傳馬町二丁目　山田屋庄次郎板

万亭應賀作　猛齋芳虎画

御殿奉書記

十二大

[illegible]

飯嶋竹月藏

重寶記

雞鳴ニ起テ手ヲ洗ヒ口ヲスヽガ高ラ決取揚ベラレバ是吉事

ノ初ル兆ナリ

夜中ニ鳴ヒレバ

明日幸変アリ

夜明ニ鳴ヒレバ

ヒレバ音

清ヒテ

吉事有ト云

東日記拾二編 叙

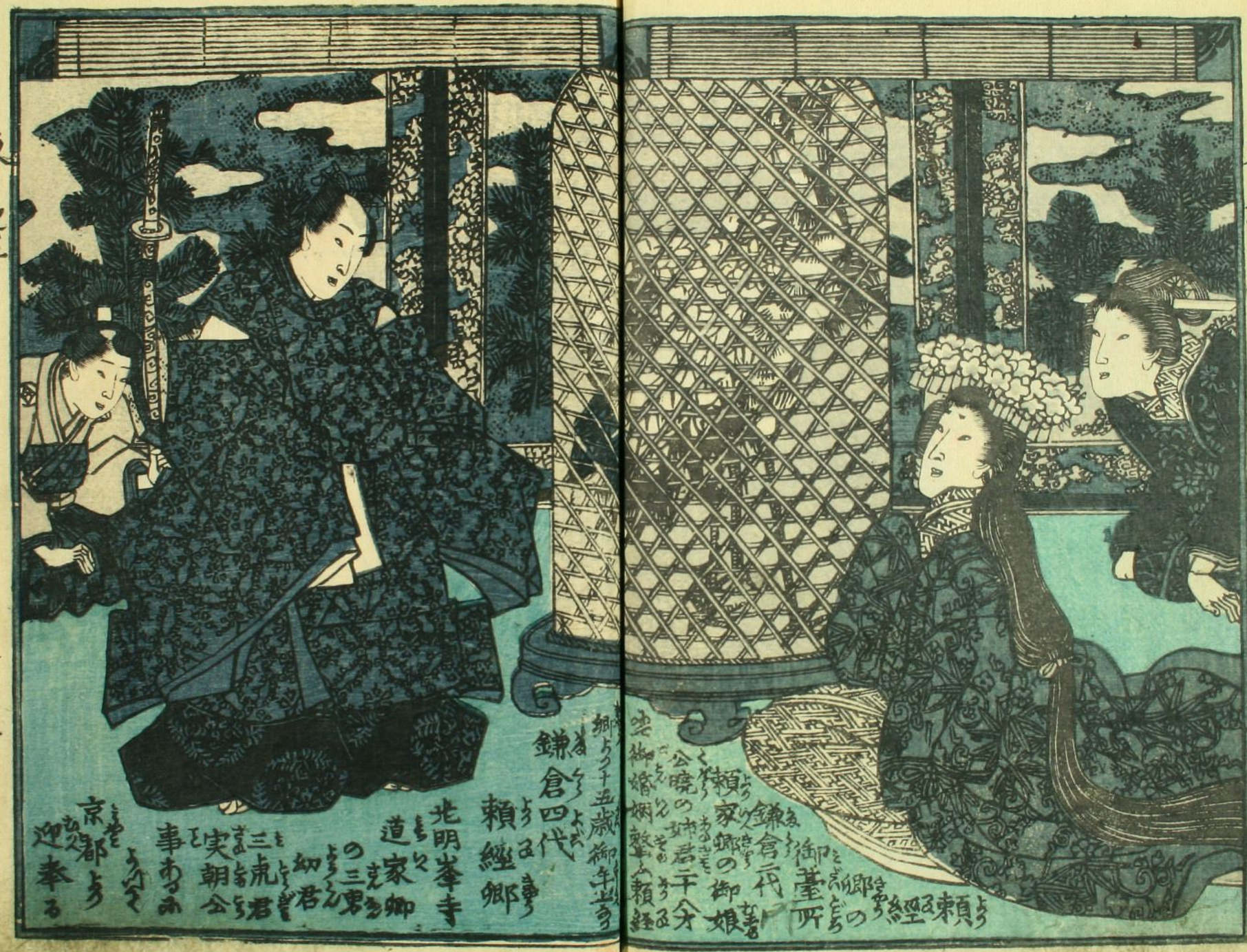
所奉公東日記

鎌倉三代の武將實朝公ハ天性柔順ナれ共良臣大江廣元入道覺阿の諫言を納賜ハぢ終ニ内府ニ昇り左近衛大將を兼玉ふあ是元龍悔るの金言ふ違ハぢ勝の劔み封ニ玉ふと天命とやいはんやさるのみと此根発ハ執權義時の逆意るふ義時の子孫無事み執權を嗣ハ如何ぞ因縁みや是ハ家み一人の聖賢の德風あるる故九代の榮ハ唯兼時み寄處ぞと云

万亭應賀誌

長沼五郎宗政
故畠山重忠の
末子六輔房重
慶と二荒山
を討取
首を持
参して
政道に
賞る

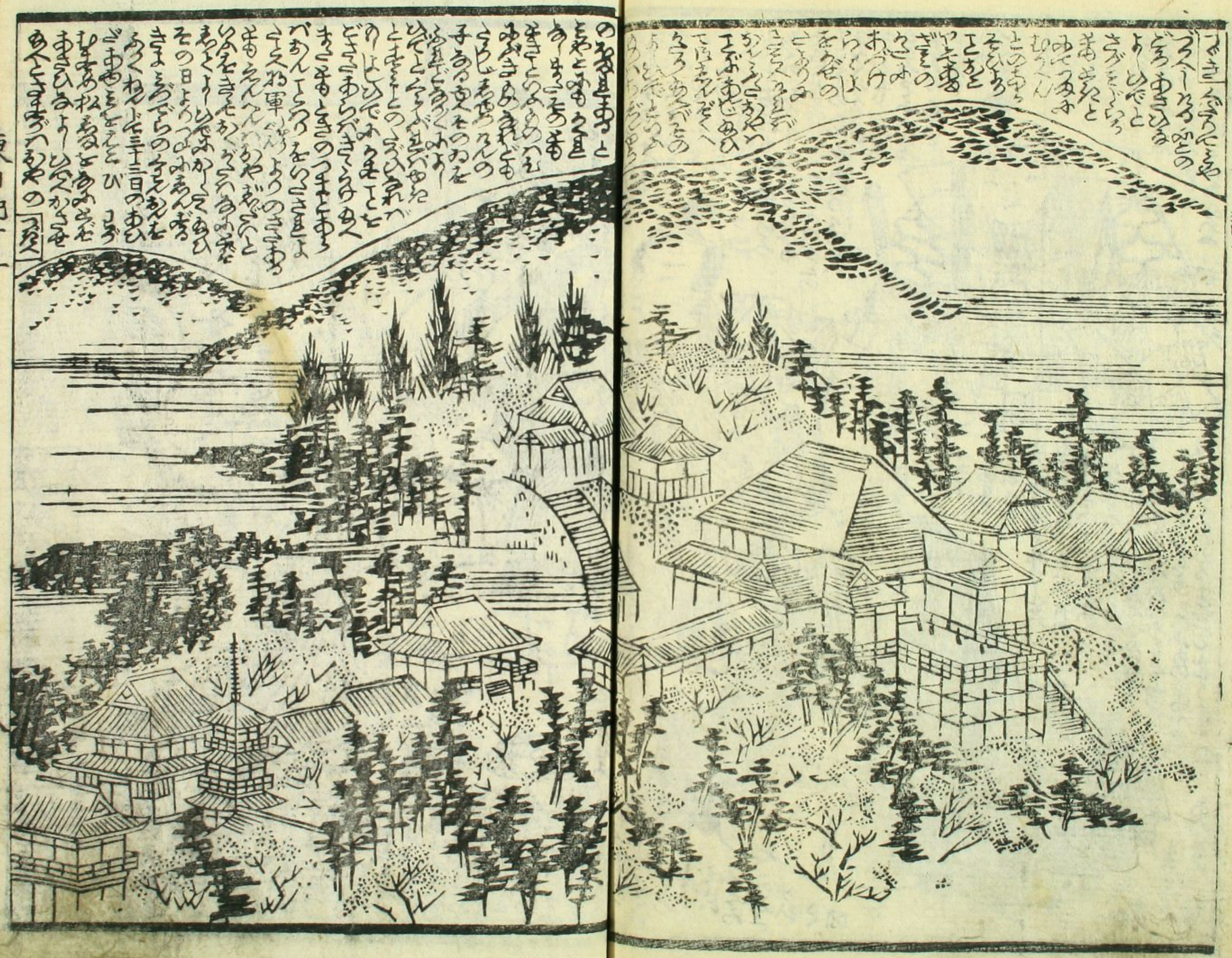
宋朝陳和卿
宋朝の佛匠にて
南都東大寺の大仏
を造り博識なりし
故実朝公鎌倉
迎へて大船新造の準縄を聞手に居宋国へ帰る


東昌寺
北明峯寺
道家卿
の三男
幼君
三虎君
実朝公
事あり
京都より
迎奉る
鎌倉四代
頼經卿
鎌倉二代
頼家卿の御娘
公暁の妹君千代
姫
御婚姻整ふ頼經
頼經卿の
御臺所

よろみとどよめ
さるわとおとどよりなり
のこちを物よ
び一すこの
めいこるる
うちぢかく
どちよの火も
ちのまはびさうををいのまうのぢ
とつぐあくぎをいのまうのこと
らぎめつぎらみあしびるる
なあを
きをたれば
たがめをどのあるぎを
きをを
あんよろこびるのりをる
ぎをこをみよりとをたばぞ
のうるの
よりよるみゲ
る
一こちちを
らをこちちこ
つぐあくも
びのこんとこと
次へ

つぎさらに

実
五



松

應賀作　芳虎画

口中御薬　固齦散　大包代百銅　小包代三十二銅

清浄精製　白妙　一包代

寝小便大奇薬　一包代三百銅

無病長寿　養生手引草　全二冊　京山翁著　廣重画

美玉百人一首　中本形　全一冊

紅梅百人一首　半紙本　全一冊

雛鶴笹湯寿　紅摺大本

女中用文玉手箱　中本形　京山翁著

敵討白石噺　全二冊

伊賀越敵討物語　全二冊　芳虎画録

源家武勇鑑　二編　三編　秀賀校合　芳虎画録

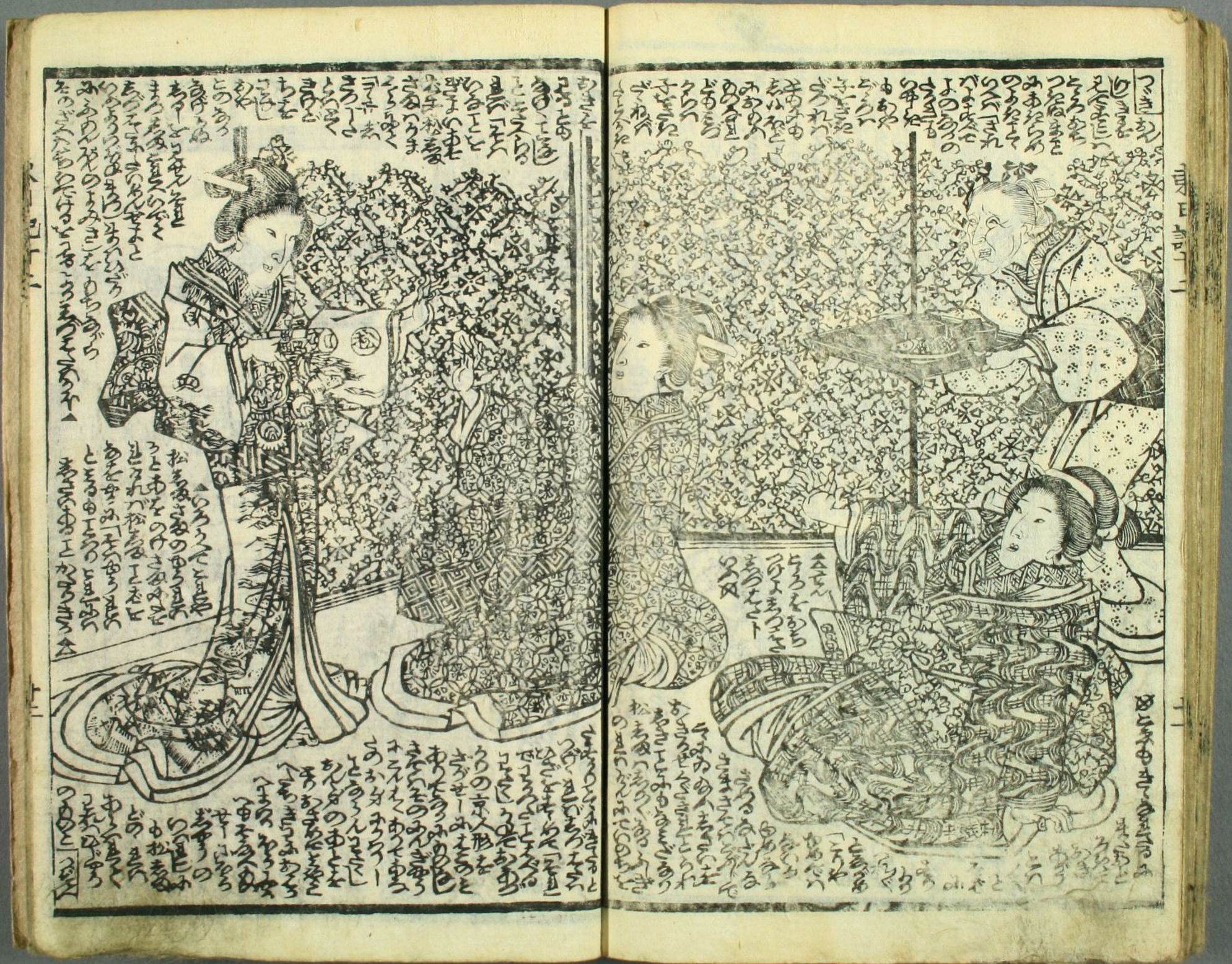
足利絹手染紫　二十編　二十一編　金水作　國貞画

孟齋芳虎画

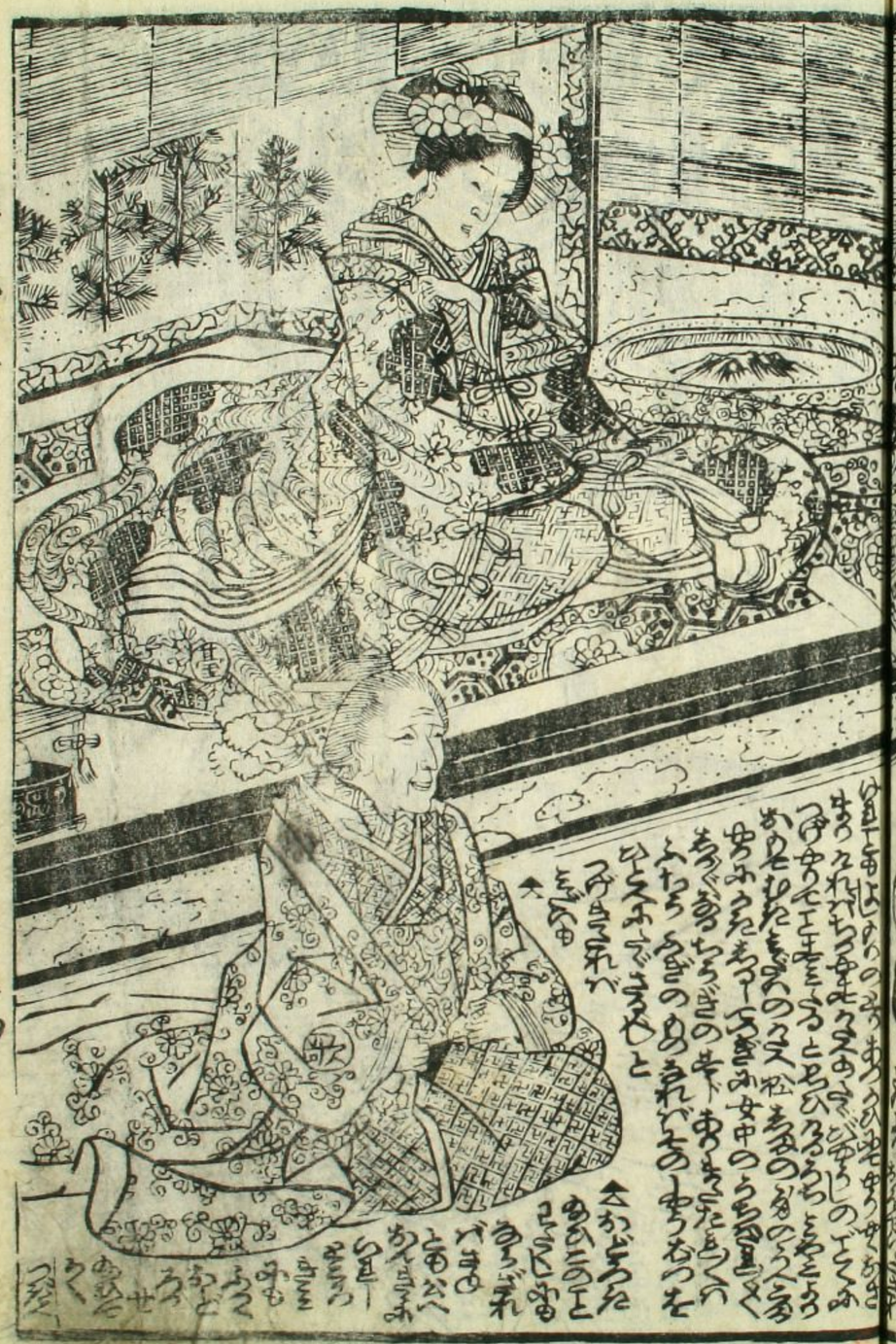
下

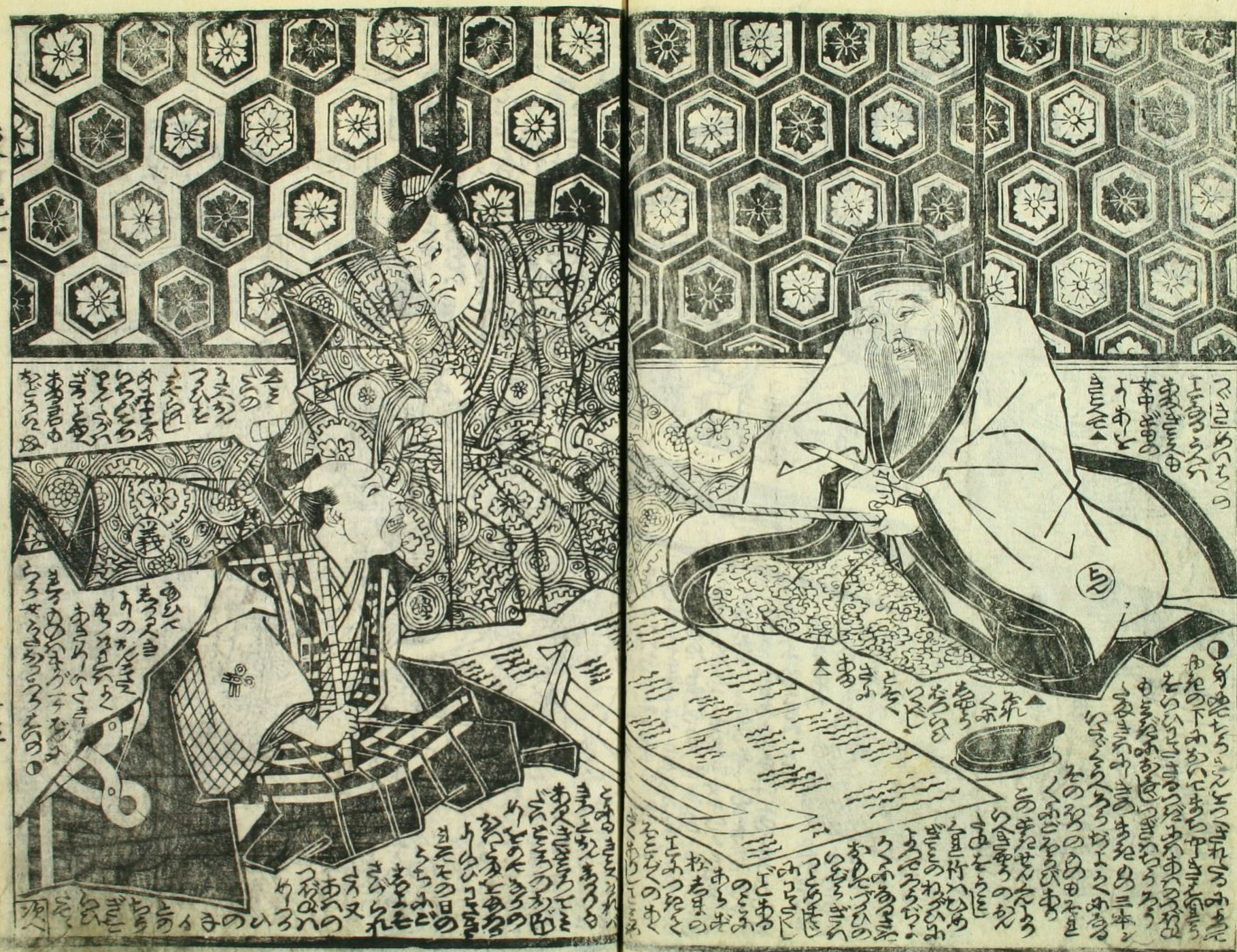
重寶記

遠路の旅ありて足の
甲へ胡麻の油或
ぬれた足をふれる事は
まず塩をもみく
足をすりて入ぬるを
火手あぶれば足の
勞る事はし又両の
股をむすびて歩行ば
足かるく草臥ずとつたなり



女中
松





つゞき

つぎ

次へ

つづき
長尾
新六
新

つぎ

ちびんのもとおくびみるぞ
らくてひつぞみあきめそーまうちまう
ぎりんのさつろみろうおろくこまま
つるそのよのえもとも見くみまう
あさめら見ろうぐあまさきとのちん
あげそーとみこぐぐぎろいちん
ぐまーとのあまうみ寿福
寺ぐんみあのてちん
ぐまをあどのふ
そのろののくふ
みも百よめんえろ
みぐどもとれさまぐみとみた
うまくらのくき木もまろて
をろまろるみとびさえ
ろのみまろうえもとみ
ぐらまてなもあくあ
をぐのをのつくぐーまう
うどむぐーとの
花じぐまびまろもの
かまのとのあろみらさ
うあどのおのひを
ぐまろくよーとえらまこそこれ
ぐーまろみまろんとさねぐみまろう
をめぐどしてこれどもらまぐぐとの
とろのちまぐとめじるらちみ

あまこぐのをりつたぐまう
ろべーとあまたいろき
ぐまあのひまぐまりぐとのまく
まろぐまろくよりむのもの
いぐべーまろくらとみるた
のをぐまろみまたこまま
えんをまろのろまこをたろえん
とまもをくくさのくひまう
ものあのあまぐまこうちまろの
よりまきまろとまろ
まえちろとまろ
そのちんむまま
あまろのの
のよつぐ公
のきこのくとまの
ぐえんだくさぐいまん
とまのいくとろをまの
ちのいろのろち
三男三虎九まろ
かまるまも
公とえいとと
ろまぐとれを
のまこちひく
まづ四代の

万亭應賀作　一孟齋芳虎画

文久三癸亥春開鐫目録

御所櫻梅松録　六編ヨリ　鶴亭秀賀作　十一編マテ　楳蝶樓國貞画

七編ハ花の下なる隠遊びの続より赤々是より郷八重梅どせんを疎んじ八重梅御前は病気の一段　八編ハ暁天之助初厂祇園の社へ詣代参して暗ふ落會るより御逝去若君御愁傷の譚ふ終る　九編ハ松の前花よ准一調伏も八重梅は前のよくより呉竹零落又ハ若君梅の本御再誕まを誌す　十編　十一編ハ松の前の妬心稍顕る

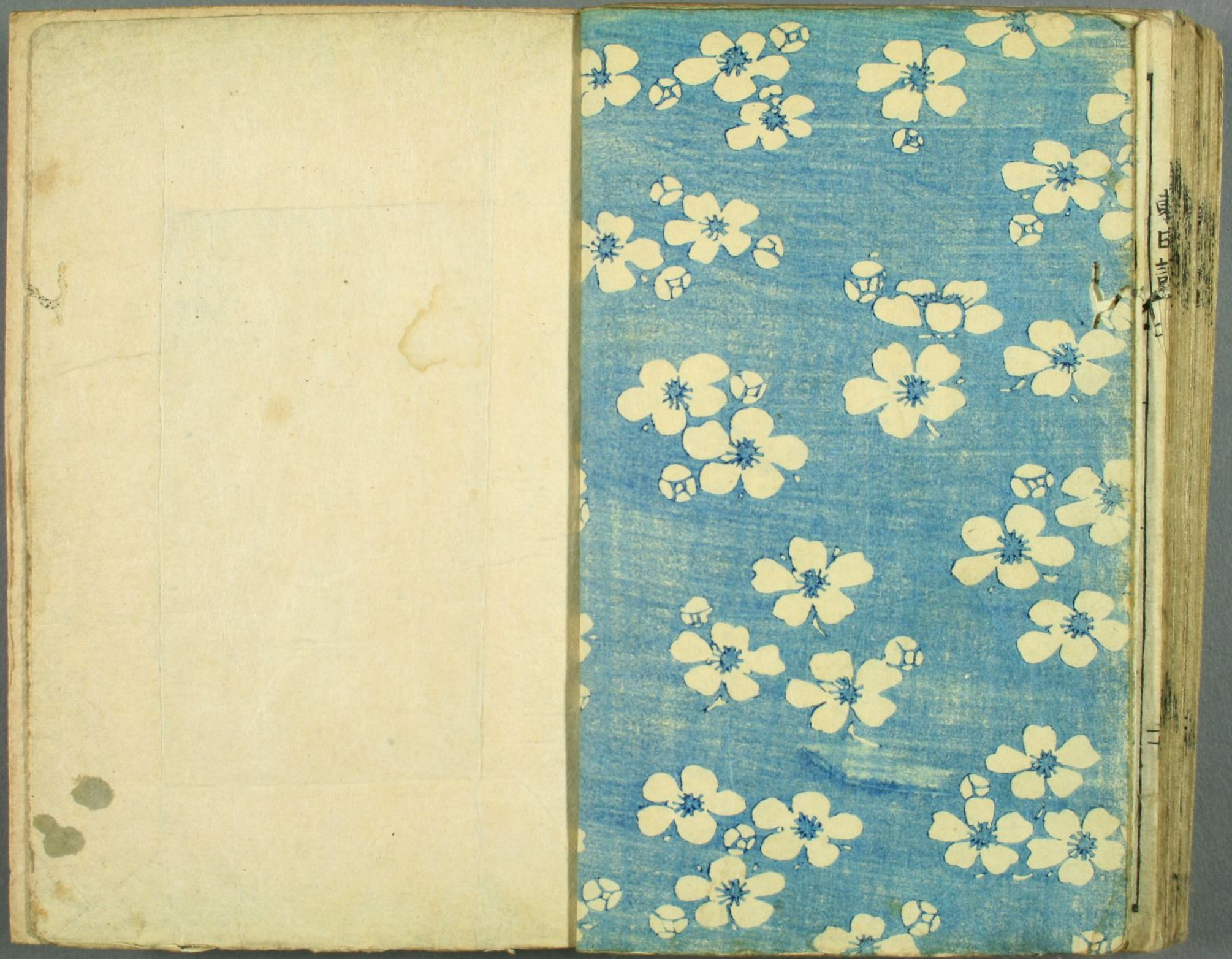
御所奉公日記　十二編　應賀作　大尾　芳虎画

教草女房形氣　廿三編　秀賀作　廿四編　國貞画

花袭狐草紙　三編ヨリ　魯文作　五編マテ　芳虎画

童繪解萬國噺　四編　魯文作　五編　芳虎画

地本錦繪問屋　錦橋堂　江戸南傳馬町二丁目　山田屋庄次郎板



早稲田大学図書館
011688991716